



ニュージーランドの  
豊かな自然に育まれたマオリ・ハーブ。  
日本の皆さんにもぜひ、その魅力と効能を  
知って頂きたいと思います。

マオリハーブセラピスト

Debs Chase-Paterson

どの主要な大陸からも離れ、  
他にはないユニークな生態系をもつ  
美しい島、ニュージーランド。  
その豊かな土壌で育つ様々な薬草と  
ハーブは、ニュージーランドの  
先住民族・マオリによって古くから、  
薬や栄養剤として愛用されてきました。  
効能の高さはもちろん、  
自然に対する感謝の思いにも溢れた  
美しいマオリ・ハーブの世界。  
マオリ・ハーブを知り尽くした  
Herbalist (薬草師)  
Debs Chase Petersonさんに、  
その魅力についてお伺いしました。

#### 家族の歴史が育むもの

私とマオリハーブとの関係を語る上で、曾祖母と祖母の存在は決して欠かすことはできません。私がまだ幼かった頃のことです。祖母の庭には何百種類というハーブや薬草が植えられており、私はその庭で遊ぶのが大好きでした。そして、祖母がそれらのハーブや薬草を使って化粧品や軟膏を作ったり、具合が悪い部分の手当てに使っているのを、ごくごく普通の日常の風景として見ながら、私は成長しました。物心がついてからは折に触れ、祖母が私に薬草やハーブの育て方、使い方や効能を教えるようになりました。成人して家を出た後も、祖母がそうしていたように、私も沢山のハーブや薬草を庭で育て、日々の生活に必要なものを手作りする生活を続けてきました。

そうして、ハーブや薬草に関する様々なことを私に教えてくれたのは祖母でしたが、その祖母にハーブ、薬草の知識を伝えたのが曾祖母です。曾祖母は1878年、イギリスに生まれました。ニュージーランドへはフランス人の夫と共に、ヨーロッパから長い船旅を経て入植しました。彼らの降り立った地はカランガへ峡谷。当時、全貌は見えていませんでしたが、一面森に囲まれた、完全に未開の土地でした。彼らの初めの家は、森の中で作った粗末なテントだったそうです。その後、森から切り出してきた木材や大きな葉を使って家を建てましたが、それもいわず、掘って小屋のようなもの。生活環境の整った国から来た女性にとって、相当には辛い生活環境だったに違いありません。



そして、その森の中で声を上げたのが祖母です。なんと曾祖母は、物を運ぶための木製のソリの上で、祖母を出産したのだそうです。ある日、曾祖母の暮らす小屋の前に、その土地に暮らすマオリの部族長らしき人が現れ、小屋の中で眠っていた赤ん坊(私の祖母)を指さしました。その部族長は伝統的なマオリの衣装を身につけ、顔一面に刺青が入っており、曾祖母はとっさに、「子供を奪われる」と恐怖で体が凍りついたそうです。部族長は赤ん坊を抱き上げると、そこに一緒に集まっていた部族の男たちのところへ行き、赤ん坊を高く掲げて見せました。曾祖母にはいったい何事なのか、全く分かりません。そうこうしているうち、部族長は赤ん坊を曾祖母に返すと、そのまま何事もなかったように帰っていったそうです。今までに見たこともない白人の赤ん坊が珍しかったのか、幼子に祝福を与えてくれたのか、理由こそ分かりませんが、曾祖母にとっては衝撃的な体験だったことでしょう。

その後、その部族長が怪我をした男性を連れて、曾祖母の小屋を再び訪ねてきたそうで

す。部族長は怪我をした部分にどの薬草を使い、どのように傷口に当てて手当をするのかを、曾祖母に実際の薬草や、手当の仕方を見せながら、教えてくれたといいます。その男性の傷はほどなく、きれいに治ったそうです。こうして、曾祖母とマオリの交流が始まり、ニュージーランド固有の様々な薬草やハーブの知識や知恵が、マオリによって曾祖母に伝えられました。曾祖母は後にも先にも、その土地に暮らし、マオリに受け入れられた唯一の白人女性です。

入植初期のニュージーランドの生活は、決して楽なものではありませんでした。全ての日用品は手作りしなければなりません。代用品を見つけ出すこともしなければなりません。そんな生活環境の中、最も深刻だったのが入植者たちの栄養失調の問題です。曾祖母とその家族も、飢えをしのぐために森のあらゆる植物を食べ、タンポポですら食していたといいます。そんな極限状態にあった曾祖母とその家族を、マオリが教えてくれた食用植物と、栄養価が非常に高い薬草が救ってくれたのでした。

1918年、ニュージーランドをインフルエンザの猛威が襲い、多くの人が命を落としたことがありました。その間も、曾祖母はマオリから伝えられた豊富な薬草の知識を使い、感染を予防、手当をし、家族の命を守りました。こうして私がこの世に生を受けることができたのも、マオリ・ハーブの力を借り、一族の命を守ってくれた曾祖母のお陰なのです。

こうして改めて家族の歴史を振り返ってみると、私が今こうしてHerbaliat(薬草畑)となったのは、ごくごく自然な流れだったのだと感じます。曾祖母や祖母、マオリから伝えられた知識と伝統を守り、それらを使って人を癒し、更にその知識を次の世代に伝えていく。脈々と受け継がれる知識と伝統の一部に自分の存在があるということ、とても誇りに思っています。

#### マオリハーブ研究

現代のニュージーランドにおいては、実際に薬草やハーブを調査し、それらを使って手当を行うために、いくつか取得しなければならない資

格があります。私はセラピーの実施と、薬草・ハーブ製品製造の正式な許可を、ニュージーランドのナチュラルセラピスト研究協会から受け、更に「ホメオパシカル」という資格も取得しています。この「ホメオパシカル」の資格取得には、NZ原産の薬草やハーブを使ったマオリの民間治療薬「Rongoa (ロンゴア)」の研究と知識が必要とされており、その研究の中にはホルモンバランスの問題、ストレスや冷え、体のこりなど、現代人の多くが悩む具体的な症例も数多く含まれています。それぞれの症状に有効な薬草とハーブ、その調合についても深く学ぶ必要があり、Rongoaは正に、壮大な「薬草学」といえるものです。研究を通して、曾祖母やマオリが実践していたRongoaには、科学的に裏付けできる効果がある、ということをはっきりと理解できたことも、大きな誇りと自信になりました。

また、2006年にはマオリ人大学より、マオリ学全校を学ぶMaori Ora Certificate (マオリ健康資格証書)を授与され、更にTe Wananga Aotearoa (アオテアロア教育協会)というマオリ教育団体からは、マオリハーブ学のコンサルタントとしての正式な任命も受けました。ここでは、NZQA (NZの学位・資格審査協会)から、マオリハーブ学を正式な学科として認定してもらうため、教科作りや企画などを担当しています。数年前には、何千という薬学生が集う大学へ私が調合したRongoaを提供し、薬学生の間にマオリハーブの効能への理解を広める活動にも取り組みました。このように、マオリハーブとの関わりは、私のライフワークそのものとなっており、マオリハーブの素晴らしさを更に多くの方々に知って頂けるよう、今後もできる限り、活動の幅を広げていきたいと考えています。

### マオリハーブをもっと身近に

密接にマオリハーブと薬草に関わりながら25年ほどたった頃のことです。私が作ったハーブ製品が、様々な症状に一定の効果を見せているという実績をもとに、マオリハーブと薬草に特化したブランド「Kiwikitiz」を2001年に発足させることになりました。Kiwikitizの製品にはそれぞれ、先に触れたマオリの民間治療薬Rongoaのコンセプトが盛り込まれており、症状に合わせた薬草とハーブが調合されています。その他にも、Kiwikitizではペットに向けたユニークな製品も多く揃えています。家族の一員で

あるペットにも、自然で安全なものを与えたい、という多くのリクエストを受けて作られたものです。ペット用とはなってはいませんが、実は人間が使っても、全く問題のないものばかりです。

2009年からは、日系企業JBC社(ジャパニビジネスコンサルティング社)とのタイアップで、Holistic NZという製品ラインナップも開始しました。Holistic NZの製品は、日本人の声を多く取り入れ、冷え、女性特有の辛い症状やアレルギーなど、現代の日本人が悩む症状に向けた製品を中心に販売しています。

テプケにある私の研究室では、辛い症状に悩む方々と直にお会いし、問診、デトックスの施術を行うなどしています。症状は人それぞれです。実際にお会いし、その方の今までの病歴や症状はもちろんのこと、ライフスタイルにいたるまで、細かく丁寧にカウンセリングを行いながら、その方に最も合った調合を行います。

自分の体内に取り込むものですから、マオリハーブとはどのようなものなのか、実際に薬草やハーブを見て、触れてみたいという方もいらっしゃるでしょう。そのような、より実践的にマオリハーブを学んでみたいという方に向けて、不定期ですが、ワークショップも希望に応じて開催しています。このワークショップは数日間、森の中で生活をしながら、そこに生息する薬草やハーブに触れ、その効用や使い方を学ぶことを目的としています。私自身も1992年頃に初めて、このワークショップに参加し、知識を深めた者の一人です。他の国には見られない非常にユニークな自然と生態系を持つニュージーランド。そんなニュージーランドの森の中での生活は、美しい自然を体感する素晴らしい経験になることはもちろん、マオリハーブとRongoaの世界を知る、真いきっかけとなることでしょう。

### マオリの英知と伝統を日本の皆さんへ

ニュージーランド固有の植物や生態系をご存じない方には、マオリハーブの世界は少し難しく、分かりにくいもののように感じられるかもしれませんが、でも、日本人の皆さんは古くから自然への敬愛、尊敬、感謝の念が深く、どこかマオリの文化にも共通した価値観をお持ちであるように思います。そんな日本人の皆さんにはきっと、マオリの教えもスナリと、ごく自然にご理解頂けるような気がします。自然への感謝の念は、学校で教えられて、丸暗記して覚えるようなものでは

なく、普段の生活の中で親から子へ、子から孫へと大切に伝えられ、自然と心の中に育まれていくものだと思います。このような美しい価値観を共有できる日本人の皆さんに、自然への感謝の思いに溢れるマオリハーブをご紹介できることは、私にとって非常に大きな喜びです。

マオリハーブやニュージーランド固有種の薬草の知識は、何世代にもわたり、マオリによって大切に引き継がれてきたものです。それを深く学ぶことは決して簡単なことではありませんが、私の場合は曾祖母、曾祖母にマオリハーブを伝えたマオリ、祖母、そして昔、夫が病気をした際、それを癒してくれたマオリのヒーラー(治療師)が、偉大な師となり、私をここまで導いてくれました。彼らから受けた様々な教えは今、私の娘たちへと受け継がれ、同時に、Kiwikitiz, Holistic NZの製品一つ一つの中に注がれています。Kiwikitiz, Holistic NZのどの製品にも化学的な薬品は一切含まれておらず、全て自然の成分のみを使い、一つ一つ丁寧に作られています。日々、受け継がれてきたマオリの英知と植物の持つ力がKiwikitiz, Holistic NZの製品を通し、日本人の皆さんの健康で、幸せな生活に貢献できることを、心から願ってやみません。

記事/Mauna Kaleinani Luka



Debs Chase-Paterson  
デブス・チェイス・ピーターソン

ニュージーランドの公認マオリハーブセラピスト  
所有資格  
ニュージーランド公認自然療法プラクティショナー  
ホメオパシカル資格  
インドネシア薬草学資格  
各種セラピー資格  
(リンパドレナージュ/リフレクソロジー/治療マッサージュ  
顔面マッサージュ/電圧療法/カウンセリング)  
ホメオパシカル学会員  
マオリハーブ専門家

Holistic NEW ZEALAND

☎ <http://www.holisticnz.co.nz>